

和歌山県立医科大学青洲基金 寄附者さまからのメッセージ

「寄附申込書」に添えられたメッセージ、またはオンラインでの寄附申し込み時に入力していただいたメッセージをご紹介します。

お名前の公表を希望されない方からのメッセージについては、寄附者ご芳名欄を「ー」として掲載させていただいております。

個人情報に関わる部分など、メッセージの一部に修正を加えている場合がありますので、あらかじめご了承ください。

受入年月日	寄附者ご芳名（敬称略）	メッセージ
令和5年4月28日	天野 和幸	入院中、部屋を忘れやすい患者さんのために入口ドアの取っ手に熊のぬいぐるみが縛って有ったり、点滴スタンドの車輪の動きにまで気にして頂き（自分自身は気にならなかったのですが）交換してくれたりして色々気を遣って頂き嬉しく感じました。何かのお役に立てればと思います。
令和5年5月31日	ー	和歌川方向から病院駐車場へ車で移動する場合に研究棟と病院の間の通路を横断される方が横断歩道以外の所を斜め横断したり何人もまとまって横切ったりされてヒヤッとしたことが何度もあります。歩道に簡単な柵とかプランタを並べるとかが有ったらなあと思います。
令和5年6月30日	ー	外来で訪れて幾度か少し不調だったことが有り、その都度色々な検査予約を入れて頂き有難く感謝しております。何かのお役に立てればと思います。
令和5年7月20日	ー	大変お世話になっています。ありがとうございます。
令和5年7月31日	ー	入院中トイレの洗面所で倒れた時、たまたま通りがかった看護師さんが気づいてくださり病室まで運ばれた後は先生や大勢の看護師さんが駆けつけて心配してくださりととても有難く感じました。何かのお役に立ててくださればと思います。
令和5年7月31日	ー	医学生時代に過ごした和歌山が懐かしいです。医師として育てて頂いて感謝しています。僅かですが、感謝の気持ちです。お役に立てて頂ければ幸いです。
令和5年7月31日	細田 実季	子ども2人が、出生前から通院・入院・手術と10年以上、たくさんの医師・看護師・メディカル等、病院スタッフの方々にお世話になっています。 ずっと何かの形でお礼をしたいと思っていたところ、今回、青洲基金の存在を知り、少しですが寄付させていただくことにしました。 病院的スタッフが働きやすい環境の整備や、可能でしたら小児科病棟プレイルームの備品購入に役立てていただけるとありがたいです。（入院中はプレイルームでよく遊ばせていただきました。入院中の子どもたちが少しでも楽しく療養できれば嬉しく思います。） 今後も長くお世話になるとと思いますが、よろしくお願いいたします。
令和5年8月31日	ー	主にかかっている診療科以外に複数の診療科にかかっており、診療科により採血の検査項目が違うのを連携して一回で済むように診察日や項目を調整してもらったり採血のない診療科とは診察日を合わせてくれたりして頂いたことがあり助かりました。何かのお役に立てればと思います。
令和5年9月29日	ー	☑院中、食事が終わった後、診療科にもよるのかもしれませんが、看護師さんが毎回食べ残した量をチェックしてお膳を引き上げてくださり、体調不良などでほとんど食べられないことがあり、お碗の蓋を開けた時、一瞬悲しそうな顔をされたのを見て申し訳なく心配してくださっているのを感じました。何かのお役に立てればと思います。
令和5年9月29日	辻脇 義一	本年7月31日附属病院にて肝細胞ガンをロボット支援下で腹腔鏡手術で消化器外科の宮本篤先生執刀で行って戴きました。その後の回復も順当で感謝しております。このような先端技術がひろく行き渡ることを期待して細やかながら寄附をさせて頂きます。

寄附者さまからのメッセージをお待ちしております。